

あなたの手に広島を取り戻し、広島とあなたを守る“ヒロシマ庶民革命”

# 広島瀬戸内新聞

2024年7月号

社主・さとうしゅういち

いい加減な候補者選考とはしご外し

7月5日発行

1996年4月1日創刊

広島市安佐南区中筋1-18-27-203

発行人 さとうしゅういち(佐藤周一)

090-3171-4437

<http://hiroseto.exblog.jp>

hiroseto2004@yahoo.co.jp



## これでいいのか?! 広島政治・日本の選挙

### 椋大樹先生「茶番選挙 仁義なき候補者選考」出版記念講演会を敢行

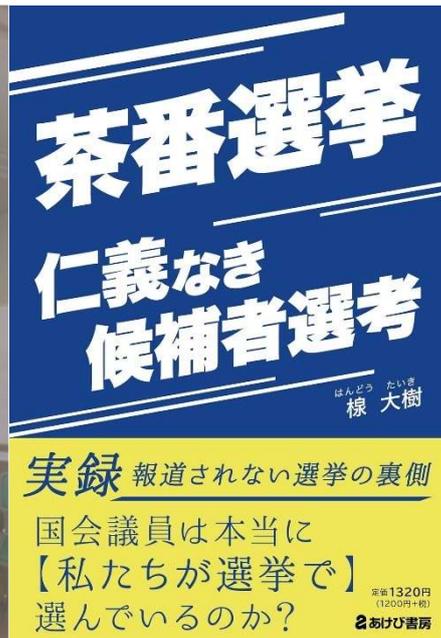
2024年6月9日と16日、広島瀬戸内新聞は安佐南区内で今年度の勉強会として「報道されぬ広島の選挙 椋大樹(はんどう・たいき)先生『茶番選挙 仁義なき候補者選考』出版記念講演会」を敢行しました。

河井案里さんの当選無効に伴い、2021年4月、参院選広島再選挙が執行され、本社社主さとうしゅういちも立候補しました。しかし、あの選挙で「檻の中のライオン」で超有名な弁護士の椋大樹先生がもし、立候補していたら、自分は間違いなく立候補していなかったと考えています。それくらい、筆者は椋先生を尊敬していました。

その椋先生がなんと、立憲民主党の公認候補に内定しながら同党からはしごを外されるという酷い目に合われたとうかがい驚愕。「金権腐敗政治」と並ぶ広島政治のもう一つの闇

＝「古い政治文化」を打ち破り、政策議論や政治家の政治姿勢を重視する政治・選挙の在り方にリニューアルしなければならないと改めて再確認し、今回の講演会を開催しました。

本書「茶番選挙 仁義なき候補者選考」は定価 1320 円、あけび書房から出版されています。



椋先生は、筆者と同じ 1975 年に広島県海田町生まれ。中央大学ご卒業後、弁護士になられました。そして、2012 年末の安倍晋三さんの総理復帰後、同政権による様々な暴走に危機感を抱きます。為政者をライオンに、憲法を国民・県民・市民が為政者が暴走しないように入れておく檻に例えた講演会を各地で開催するようになられました。それらをまとめたのが主著「檻の中のライオン」です。

その椋先生が、日本の国政選挙の候補者の決まり方とその問題点、政党の抱えている問題点など縦横無尽に語っていただきました。



# いい加減な国政候補者内定と、はしご外し

2020年に河井案里さんが強制捜査を受けると、わたしと同じ広島県福山市出身で「檻の中のライオン」講演会の主催者もされた塩村参院議員が、案里さん失職の際の補欠選挙に立候補しないか、と誘われたのが発端となり、立憲民主党の候補者に内定しました。

さて、椋先生を推してくれた当時の旧立憲民主党の幹部の方の多くが椋先生の名著「檻の中のライオン」を読んでおられなかったようでした。いかに、いい加減なことで候補者が決められているか、よくわかりました。

そして、2021年2月に河井案里さんの当選無効が決まっても椋先生に立憲民主党から連絡がなかった。そして、3月には、いきなり、別の有名弁護士の名前が出るなどした。さらに、東京で当時の立憲幹部相手の極秘の面接をようやく受けて、広島に帰ってきたとたん「宮口治子さん」という、聞いたこともない方の名前が出てきた。そして、その方は、実は、立憲民主党広島の選対責任者の森本しんじ参院議員の秘書のパートナーだったそうです。

さとうしゅういち、河井案里さんが逮捕された6月18日から、参院選挙補欠選挙を想定しての街頭での政治活動を加速させるとともに、立憲民主党など野党各党の関係者にも推薦や支援の打診をしていました。

しかし、当時立憲民主党広島の幹事長をされていた県議は、心配になって連絡を取ってきた椋先生に「さとうしゅういち？メッセージもらってるけど、無視しているから大丈夫」と言いながら、のちに椋先生の梯子を外すのに中心的な役目を果たします。その上、参院選広島再選挙2021終了後に椋先生に失礼な言動を取っておられたそうです。この県議とは当時は「広島3区市民連合幹事」を務めていた筆者・さとうしゅういちもいろいろな会合などでお会いしていました。ダメならダメと、はっきり伝えてくれれば、筆者も別の戦略を取っていたでしょう。

ちなみにこの県議は、連続で無投票当選が続いていました。無投票当選がいかに、権力者から緊張感を失わせるのか、よくわかる例です。

参加された方からは「大学生の子ども二人とも選挙なんかいかないと言っている」「昔は選管で合同演説会があった。ああいうのやるべき」「広島は教育や医療などいろいろな面で悪いことを全国の先頭を切っている。広島を変えることが日本を変えることにもつながる」など広島政治や県民意識の問題についてご感想を戴きました。

さて、森本しんじ参院議員は「広島のために何をしてくれるのか？」という質問を面接の際にされたそうです。椋先生は「国会議員は国民全体を代表するものです。」とはっきり答えました。筆者もガツンと殴られた思いです。

## 「広島政治をリニューアルする。」

参院選広島再選挙の立候補表明の記者会見で筆者が記者を前にお話したことです。ただ、これは、冷静に考えると広島県知事か広島市長がすべき仕事だと、筆者も椋先生のお話を伺い気付きました。

広島県内は、3年連続の全国ワーストワンの人口流出、三原や安佐南、福山など県内各地で深刻な産業廃棄物流入の問題、平川前教育長による教育私物化。住民の意見を十分聴かずに1300億円ともされる消費税を投入する県病院など廃止とエキキタ巨大「湯崎」病院建設。定員割れの新大学設置。矛盾が噴出しています。そうした中で、湯崎知事は、裁判で産廃事業者と一体となって住民に敵対したり、平川前教育長についても「法令違反は改革の副作用」と庇ったりするなど、暴走しています。

地元選出の岸田総理は支持率が低迷し迷走していますが、対抗すべき野党第一党も、2021年衆院選で県内から立候補した人を3人も事実上クビにするなど迷走が続いています。

さとうしゅういちと広島瀬戸内新聞は広島をあなたの手に取りもどし、広島とあなたを守るために、こうした勉強会を広島瀬戸内新聞の主催や後援で開催していく予定です。今後ともよろしく願いいたします。



## 2024年東京メーデーに参加して 本紙・岡崎徹記者が報告

広島市中区在住の岡崎徹記者。広島市内の郵便局の非正規労働者として働いておられます。また、労働組合「郵政ユニオン」の役員としてもご活躍されています。岡崎記者は労働契約法第20条に基づいて、正規職員との差別をなくすよう求める裁判を闘い、勝訴されています。数年前、そのことを報告する岡崎記者の演説を聞いて、本社は頭をガツンと殴られたように感じたのを思い出しました。(写真一番右が岡崎記者)

5月1日に東京で行われたメーデーに参加しました。日本を代表する二つの労連の組織が、日比谷とそして代々木で労働者の祭典を祝い集会を開催しました。郵政ユニオンの本部及び東京のメンバーと合流し全労協主催の日比谷メーデーに参加、振りしきる雨の中労働者の地位の向上を目指す皆の思いは大変な熱気となり日比谷野外音楽堂を包み込みました。主催者の挨拶から始まり各労組が日々の活動報告をしました。福島みずほ国会議員による労働者の団結を呼び



かけるスピーチは大変に迫力のあるものでした。最後に、団結頑張ろう!のシュプレヒコールの後、都内へのデモ行進をスタートさせました。

私はその後同日に行われていた代々木公園での全労連主催の集会に参加しました。すでにデモ行進をスタートさせていた集会参加者に表参道で合流、デモに加わりました。こちらの集会も雨にもかかわらず12,000人が参加、都心の目抜き通りに延々と続くデモ行進の風景は圧巻でした。

今回の東京のメーデーに参加し感じたことは、当日集まった多くの労働者たち関係者たちが大切なものを守ろうとしている姿でした。それは「8時間働けば安心して暮らせる社会の実現」であり「平和に暮らせる社会の実現」でした。

そして「誰もが安心して存在し続けられる社会の実現」でした。家族と健やかに過ごすことができる生活というものを実現し守ろうとするその思いがとてもよく伝わってきました。1800年代の終わりごろ8時間労働を求めてアメリカで労働者たちが決起したことがきっかけで始まったこのメーデーは、労働者の権利を守る闘いの象徴でありそして祭典として100年以上に渡って受け継がれているものです。我が国においても弾圧を受けながらもこの労働者の祭典は守り続けられています。

労働者は常に弱い立場です。だからこそ憲法で労働者の権利が守られ各種労働法制によって手厚く保護されています。そうすることで社会の隆興をもたらそうとしています。

さらに賃金というものが労使交渉によって決められることを考えれば、労働組合の活動は保護されてしかるべきです。憲法が、国に政府に守れと明示しているのは労働者の団結です。労働者の団結と連帯こそが私たちの生活を守り、賃金をそして適正な労働分配を守ることとなります。

現在世界で類を見ない賃金の上がない国となっている現状を鑑みれば、労働組合の活動への社会の理解と支援というものが絶対的に必要な状況となっています。安心して暮らせる社会の実現のために皆さん共に頑張りましょう。

# 世界パラ陸上神戸大会 審判員として世界記録目撃

本紙関西支局 鈴木義哉記者が特別報告

5月17日から25日に行われた、2024 世界パラ陸上神戸大会に審判員として、参加しました。参加した理由としては、大学時代に陸上部に入っていてその活動の一環として日本陸上競技連盟の公認審判員資格を取得。卒業後も広島県の織田記念陸上に匹敵する兵庫リレーカーニバルや、兵庫で行われる競歩の日本選手権、神戸マラソンなどのビッグゲームの審判をしてきたこと。高校時代から猛進に対するボランティア活動に参加してきたことなどがあります。自分自身も身障者大会での審判は89年の神戸のFESPIC（環太平洋身障者スポーツ大会）06年の「のじぎく兵庫大会」（身障者国体）の参加経験もあり今回参加しました。21年、22年とリハールを兼ね神戸で行われた日本パラ陸上にも審判員として参加しました。



今回は投てき審判員として砲丸投げ、円満投げ、やり投げ、こん棒投げの種目を担当しました。パラ種目投てき種目は知的障害、視覚障害、切断障害、低身長（いわゆるミゼットで慎重137CM以下）下肢障害などがあります。下肢障害の選手の場合は座位投擲といって選手が自信の持ち込んだ専用の競技用の椅子に荷物の固定に使うラッシングベルトで固定して投擲します。尚計測に関してはメジャーではなく落下点にプリズムを置きそれを光波計測器（トランシッド）で計測し正確を期しています。一端競技となるといくつも担当があるのですが、**メインにやったのが主審をサポートする副審と残分計**でこれは主審がコールしてから1分以内に試技を行わないと失格になるルールがあるためです。

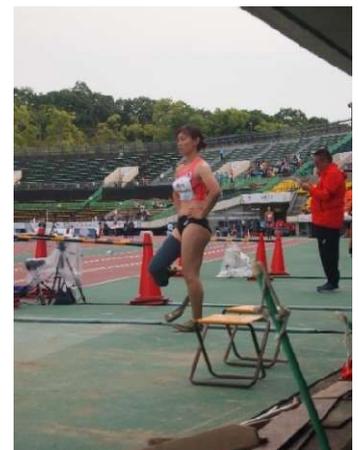
## 毎日早朝に集合、大学生もサポート

初日こそ、8時集合でしたが、2日目より7時30分集合で業務が始まりました。まず毎日計測器のチェックを毎日行わなくてはならないからで、5Mぐ

らいの距離を光波と金属製のメジャーで計測し双方の誤差を報告、さらにメジャー（一定規格のものの使用が義務だが）の製造番号まで報告しなくてはなりません。使用される機材（砲丸、円盤、やり）は原則 競技場が用意し別部署の用器具係の測定をパスしたものでないと行けないのですが（競技者が持ち込むことも出来るが同様に検定を受けなければならない）選手の所属国の記録、エリア記録、世界記録が出た際は同様に再検定が義務づけられています。今回、**私の担当した競技で2つ世界記録（女子知的障害砲丸投げ、女子座位やり投げ）が出たのですが器具の再検定や選手のドーピングチェックへの誘導など大変でした。**

また今回は日本福祉大学の学生が運営サポートに来てくれていて、主として下肢障害の競技者の専用椅子のラッシングでの固定です。彼ら大学のある愛知県の身障者大会で経験を積んでいり審判員ではなくサポート要員での参加でしたが大きな力となったことは言うまでもありません。

競技は、初日より順調に消化。初日は視覚障害男子5000Mが行われ唐沢剣也（SUBARU）が15分3秒のタイムで3位に入り銅メダルを獲得。3日目にはパラのスター選手が多く登場 義足走り幅跳びの”アニキ”こと山本篤（新日本住設）は5位入賞、女子車椅子800Mの村岡桃佳（トヨタ）は4位入賞 上肢障害女子100Mの辻紗絵（日体大教）も4位入賞 知的障害女子走り幅跳の沢田優欄（うらん エントリー）は3位の銅メダルを得ています。



そして3日目は自分が仕切った知的障害女子砲丸投げでは日本の堀怜那（ID岡山）が7位ながらアジア記録更新、そして優勝したサビーナ フォーチュン（イギリス）は14M73の世界記録を更新。

4日目には日本の跳躍陣の活躍が目立ち。男子知的障害走り幅跳びで石山大輝（順天堂大大学院）が7M08で2位に入りパリ内定を確実にしました。

また男子視覚障害100Mでは川上秀太（アスピカ）が10秒70で2位に入りパリ内定を確実に。そして女子義足（膝下）走り幅跳びでは中西摩耶（鶴学園ク）はシーズンベストの5M25で3位に入り世界選手権3大会連続のメダル獲得となりました。中西は昨年、紅白歌合戦の審査員を務めるなどパラアスリートの枠を超えた活動もしており今年で引退を宣言しているだけに有終の美をパリで飾ってほしいものです。

5日目のイブニングセッションでは兎澤朋美（富士通）が女子100M（膝上義足）に出場 トップのカリスナ タライニーにおいていかれるも後半の追い上げで15秒76と2位に入り銀メダル獲得、3位には前田楓（新日本住設）も3位に入った。また車椅子男子400Mでは佐藤友祈（モリサワ）が2位に伊藤竜也（新日本工業）が3位で両名はパリパラリンピック出場がほぼ確実となりました。また女子脳性まひ女子100Mでは小野寺萌恵（東北陸協）が3位に入りました。

6日目 自身の担当したパートでは（機能障害女子砲丸投げ）ではアフリカ新記録、ヨーロッパ新記録そして斉藤由希子（SMBC日興証券）が11M72で銅メダル獲得。男子機能障害砲丸投げではアジア新記録が出ました。

7日目 競技の方も日本チームはメダルラッシュ 記録の方も世界記録（今日だけでも4つ出た）やはりハイライトは女子膝上義足走り幅跳びの兎澤朋美（富士通）が2位前田楓（新日本住設）3位 また男子視覚障害400Mでは選手宣誓も担当した福永凌太（日体大大学院）は2位で銀メダルとなりました。

8日目 今日自分が担当した座位女子やり投げでもまた世界新記録が更新。この日はユニバーサルリレーがありました。ユニバーサルリレーとはパラ陸上を象徴する競技で4×100M リレーで一走を視覚障がい者二走に切断機能障がいのある選手、三走に脳性障がいの選手、4走に車椅子ランナーという組み合わせで、男女2名ずつ出さなくてはなりません。（種目における男女の組み合わせは自由）またバトンではなくボディタッチにて引き継ぐ。4チームの出場で争われ、日本は沢田優欄（うらん エントリー）辻紗絵（日体大教）松本武尊（たける 鎮誠会）生馬知季（グロップサンセリテワールド）だ。レースは三番手でゴールするが三走の松本がラインを踏んでいて失格となってしまったが、関係者は「全員が攻めていた。結果は残らなかったが次につながると思う」と実に前向きだった。実際東京パラでは金を獲得しているので二大会連続金を目指してほしい。機能障害男子1500では十川裕次（オムロン太陽）が3位、男子車椅子100Mでは佐藤優祈（モリサワ）が3位。リレーで失格は残念だが日本勢は健闘しました。

最終日 午後閉会式。ハイライトは神戸婦人団体協議会の方々の感謝の踊り（こうべ港音頭）を披露。これに大会実行委員会会長の増田明美氏も和服を着て参加。最後は選手や関係者も踊りの輪に加わり大会を締めくくりました。我々投擲審判パートも円陣を組み「ファイト」のかけ声で役務を締めくくりました。



# 県内初 三原市議会が水源を守る条例を制定

湯崎知事が悪質な業者とグル、放射性廃棄物も迫る中、課題多く残す内容

## 湯崎県知事が業者とグルになって「本郷」汚染水放置プレイ

三原市では2020年、水源地のど真ん中に JAB 協同組合が申請した三原本郷産廃処分場が許可されてしまいました。三原市民も、隣接する竹原市民も、圧倒的多数が反対しました。この JAB 協同組合は安佐南区の上安でもいい加減な産廃処分場の運営で汚染水流出事故を起こしています。そのことを住民側が先に把握して、県など行政に知らせたのです。

しかし、広島県の湯崎英彦知事は、ただでさえザルの廃棄物処理法も守らないずさんな審査(2023年7月広島地裁が認定)でこれを合法として許可してしまいました。そこで、住民は湯崎知事を相手取って、産廃処分場の許可取り消しを求める住民裁判を起こしました。並行し、判決が出るまでに産廃処分場が稼働してしまわないよう、仮処分の申し立ても行い、それが認められたのですが、事業者側の異議申し立てを裁判所が認めてしまいました。

そうした紆余曲折を経て、2022年秋に処分場は稼働を開始。2023年6月には汚染水が漏れ出す状態になってしまいました。一方で、広島地裁は2023年7月に湯崎知事に対して産廃処分場の許可取り消しを命じる判決を出しました。しかし、湯崎知事は判決を控訴。さらに控訴審では JAB 協同組合を訴訟に参加させ、いわば湯崎知事と業者が一体となって県民に敵対しています。

こうした中で、県はいったん JAB 協同組合に警告を出したものの、すぐに解除。現在も汚染水が流出していますが、放置プレイです。業者は、まるでイスラエル首相のネタニヤフ容疑者(ICC により逮捕状請求中)によるパレスチナ侵略かと錯覚させるような住民の所有地の重機による破壊など、やりたい放題でした。



## 日本一緩い広島の産廃規制、全国から押し寄せる

そもそも、廃棄物処理法(廃掃法)は極めてザルです。形式さえ整っていれば、産廃処分場は作って良いというものです。その中でも、いわゆる安定型処分場は「安定している物を捨てる」と称して、シートもなしにゴミを捨てて良い、というものです。実際には、「安定しているもの」に猛毒物質などが混じっているわけですが、展開検査をするだけで、詳しく調べるわけではないのです。その結果、1980年代、1990年代には香川県の豊島をはじめ、各地で大問題になりました。そこで、広島以外の多くの都道府県や産廃処分場ができそうな市町村では、「水源を守る条例」「水道水源保護条例」などが制定されました。ところが、広島県だけはその流れに遅れてしまったのです。

00年代以降は、多くの産廃が広島を目指すようになりました。三原本郷産廃処分場(写真、岡田和樹様 SNS より)に来ているのも多くは群馬や長野などの関東甲信越地方から来たゴミです。あるいは、不適切盛り土で問題になっている上安産廃処分場(JAB 協同組合が開発し、拡張後に外資系巨大企業に売り飛ばす)も多くが他府県のゴミです。そして、福山などでも汚染水流出問題が発生。東広島市安芸津でも巨大な産廃処分場が計画されています。また、三原本郷産廃処分場には、福島原発事故の放射能で汚染された危険性があると国が認めている地域からの産業廃棄物も検査もなしに持ち込まれています。

## 県知事が業者とグルなら、まずは三原市長と議会が法的根拠を造って住民と水を守るしかない

これまでにご紹介したように、湯崎英彦・広島県知事は産廃業者と「完全にグル」です。そして、その言い訳として、「廃掃法では書類と検査データが整っていれば許可するしかない」というものです。しかし、広島地裁では、検査データのとり方そのものが不十分だったわけで、そうした点が違法とされたわけです。それでも控訴をした知事は全く、県民を守る気はなく、業者とグルということなのです。

そうであるならば、市民に最も身近な市長と議会が住民と水を守るしかありません。それには、法的根拠である条例策定です。三原市民たちは、産業廃棄物処分場計画が持ち上がった段階で、「水源を守る条例」をつくる運動を進めてきました。そして、ついに2024年4月、三原市当局が条例制定へ向けたパブコメを実施しました。

### ■問題だらけの市当局案、住民パワーにより議員提案で修正、委員会では可決

ところが、岡田吉弘・三原市長(写真、岡田和樹様 SNS より)が2024年6月定例市議会に出してきた条例案は、問題だらけでした。市民の要望や市民への意見聴取会、250以上のパブコメ意見、市議による質疑などで求めてきた最低限度の実効性も削られていました。さらには、住民の責務として「特定事業者の立場を尊重しなければならない」という文言が組込まれ、水質汚染を受ける被害者という立場の住民側を縛り、被害者側に「解決に努めなければならない」と求める条文が加えられる始末です。



「これでは、水源保全をするための目的は果たされず、業者側に忖度し業者の立場を保全してしまう事になると言う前代未聞の内容となっていたのです。全国的に見てもこんな条例は存在せず、三原市の姿勢を問うものとなっていました。」(原告団共同代表・岡田和樹様)

そこで、議会中、住民たちは問題箇所を修正するように指摘。市民とともに動く多くの議員と、修正案を練り上げ、各会派や個々の議員に問題と修正への理解を話し合いながら伝えていきました。

その結果、6月12日の委員会で市民側の修正案が議員提案で可決。しかし18日の本会議では残念ながら当局側の原案が成立し、多くの課題を残しました。

その結果、6月12日の委員会で市民側の修正案が議員提案で可決。しかし18日の本会議では残念ながら当局側の原案が成立し、多くの課題を残しました。

### ■市長選で条例を活かせる市長を！そして県に引き続き許可取り消しと被害救済を求めよう！

三原市が産廃処分場を指導する根拠となる条例を作りましたが、内容は不十分ですし、どうこれを活用するかも課題です。三原市長選挙が、7月28日に行われます。きちんと条例を活用する市長を選ぶことが大事です。



一方で、広島県に対しても三原本郷産廃処分場から出ている汚染水について実態調査をするとともに、被害の救済、また、三原本郷産廃処分場の許可取り消しや原状回復などを行わせていきたいと思います。7月9日、深刻な異臭を受けて、ようやく県や県警も動き出しています(写真、岡田様SNSより)。

さとうしゅういちと広島瀬戸内新聞は広島県知事選挙2025を前に以下のことを提言しています。

- ・ 県が控訴を取り下げ、三原本郷産廃処分場の許可を取り消します。
- ・ 汚染水について早急に調査し、被害救済を急ぎます。
- ・ 三原本郷産廃処分場は県が買い取り、責任を持って原状回復します。
- ・ 広島県水源を守る条例を三原市民の修正案に準拠して制定します

## 日本の実質賃金アップへ、労働組合の奮起を！ 本紙・岡崎徹記者

賃金が上がりません。20 年以上にわたりこの国の労働者の実質賃金が上がっていません。先進国の中で賃金が上がってない国は日本だけです。

さらに公的負担率の上昇が可処分所得の低下を招き、消費支出の低下を進めています。貯蓄なし世帯は増加傾向にあり、相対的貧困率の高さは世界トップクラスです。バブル崩壊前の 1990 年代から現在まで平均所得の中央値は下がり続けました。そして年収 100 万円から 300 万円の世帯が増え続け、中間層が貧困化しています。

それに対し、大手企業の経常利益はバブル期を超えるほどの増加を示し、株式配当金はこの 20 年で 10 倍以上の増加、内部留保はデフレ下の中、500 兆円を超えました。大企業の役員報酬もここ 10 年以上で右肩あがりの大きな伸びを見せています。

所得税、市民税、県民税、そして消費税、さらに社会保障関連費の国からの取り立てが年々増加し、ついに公的負担率が 50%にたどりつくまでになりました。四公六民をはるかに超え五公五民の状態になり、人々の暮らしは一部の高額所得者や資産家を除けば困窮を極めています。私たち労働者の環境は大変に厳しい状況にあります。そしてこの悪しき状況を招いた最大の要因は、先ず以て時の政権の経済政策及び労働政策の大失策にある事は間違いありません。

しかしながらそれだけが原因ではありません、私たち労働者の意識と姿勢もその衰退の一因となっています。なぜなら労働組合が社会において十分に機能していないからです。この 10 年のストライキによる年間労働損失日は、アメリカやフランスの 10 分の 1 以下です。そしてこのストライキの件数が賃金の上昇とリンクしているという国内の長年のデータを見るにつけ(バブル期は除く)、労働組合活動の衰退というものがこの事態を招く一因となっている事は間違いありません。憲法によって、国や権力からの介入や妨害を禁じられ保護されている労働者の権利というものを有効に使えていない現状こそが、現在の労働者の苦境につながっています。

この原因は、ひとえに企業内組合という悪しき慣習が長く続いていることにあります。企業内組合は大手の労働組合を中心に最終的に企業に取り込まれ、労使協調の旗のもと経営側の顔色を伺い媚を売り続ける集団組織として落ちぶれていきました。そして労働者の権利を最大限に行使しようとする意欲が減退し、職場の理解を求めるという中身の無い目的を掲げ、闘うことを放棄し、そして結果的に労働者の地位を下げ続けています。

産業別労働組合がある先進国の労働争議は大変に活発であり、そして賃金は上がり続けています。景気が良くなれば賃金が自然に上がるわけではありません。賃金は労使交渉において決まります。賃金において労働組合の存在が第一義的に重要であり、その活動は健全で力強いものでなければなりません。

広島瀬戸内新聞とさとうしゅういち「あなたの手に戻し広島を取り戻し広島とあなたを守るヒロシマ庶民革命」を呼び掛けています。「我こそは庶民派の政治家に！」(首長、地方議員、国会議員)、また庶民派の政治家とともに広島を取り戻したいというあなたからのご連絡や記事のご投稿をお待ちしております。

電話番号 090-3171-4437 メール hiroseto2004@yahoo.co.jp

また、さとうしゅういちの政治活動としてのヒロシマ庶民革命に対するご寄付もお待ちしております(法律により日本国籍の方に限る)。

・郵便振替口座 01330-0-49219 さとうしゅういちネット

・広島銀行 本店営業部 普通 3783741 さとうしゅういちネット

★オンラインおしゃべり会さとうしゅういちと広島政治にガツンと物申す

毎週金曜 21 時 15 分～zoom meeting ID とパスコードは以下です。ガツンとご意見をお待ちしております。

ミーティング ID: 411 718 3285 パスコード: 5N6b38

★広島瀬戸内新聞公式 YouTube へのご登録もお待ちしております。

<https://www.youtube.com/channel/UCwkLToPkTsReyTZC4-ZZCDw>